



第2740地区 創立/1990年9月29日 認証/1990年10月22日

# 佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：池永 隆司 / 副会長：八重野 一洋 / 幹事：宮崎 正典

2020～2021 年度クラブスローガン

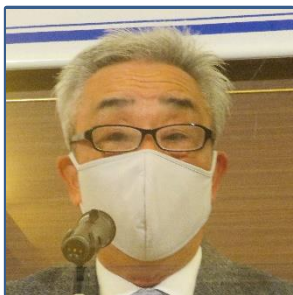
『和衷協同』  
地域のために。そして未来のために。

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：吉野英樹、山口裕之、福田英彦、鶴田明敏  
西村浩輝、古川直記、岡田文俊、崎山信幸

本日の出席率80.62%：会員数50名・出席31名・欠席9名・出席規定免除会員8名・ビジター0名  
前々回の出席28名・出席規定免除会員9名



## 会長挨拶 / 池永 隆司君



皆さんこんにちは、今週からやっと従来の寒さに戻ってきましたので、体調には十分注意して頂きたいと思えます。さてこの1週間、久しぶりに昼も夜もロータリー関係の行事がございました。暇でしたので、今年度、被選理事会が始まってから

1年間、私自身がロータリーで出かけた回数を調べてみました。新型コロナの為、3月から5月までは、あまり動けませんでしたし、地区の行事がないにも関わらず、今年度30周年という事もあって、夜の会合に48回ほど出席しており、その内夜の委員会には24回出席させて頂いております。私自身、理事・役員をさせて頂いた時には、なるべく委員会を開催し、委員会メンバーの意見をお聞きし、そして懇親もセットでしておりましたので、会長として、数多く呼び頂いて有難く思っています。しかし、このコロナ禍、毎朝パソコンを開いてまず見るのは、新型コロナ最新情報で、新規患者の全国の数、次に長崎県と佐世保市、続いて旭川空港RCの北海道と旭川市、そして孫が住んでいる佐賀県と佐賀市、その数をチェックしています。規制の緩和、GO TOトラベルなども要因かもしれませんが、やはり寒くなってきた10月後半から全国的に拡大しております。旭川市は大きな病院のクラスターから始まって、毎日10人以上の感染者の方が出ています。佐世保市もしばらくでおりませんでした、ここ数日少し感染者が出てます。これまでは幸いに感染者が少ないことと、各委員会の頑張りのおかげで、幾つもの事業が出来ております。

そして来週12月3日(木曜日)は、今年度初めて、そして1年ぶりの会員だけではなく、奥様も出席して頂いての、忘年例会及び懇親会がございます。担当の親睦例会委員会の片桐委員長をはじめ、委員会の皆様には、事前の準備そして、コロナ対策も充分にととの懇

親会を考えて頂いておりますので、ご自身の体調を考えて頂きながら、多くの皆様のご出席よろしくお願い致します。

最後に、皆さんも一度は行かれたことがあると思いますが、「喰い処りき」のオーナーの福田 力さんが、今日から入会されます。紹介会員の八重野副会長、カウンセラーよろしくお願いします。そして14～15年ぶりに会員が50名になりました。地区からの数字的な目標も一段階上がりますので、そういう事を踏まえながら運営して行きたいと思えます。



## 幹事報告 / 宮崎 正典君

### 1. 来信

#### ■ガバナー事務所

- ・2020年決議審議会：決定報告書  
決議案と制定案の得票数は  
My ROTARY の審議会のページで確認を
- ・2740地区ホームページ更新  
国際ロータリー2020年決議審議会決定報告書  
ロータリー希望の風「風の便り」

### 新入会員紹介

#### 福田 力 君

職業分類；和食割烹料理

勤務先；喰い処りき

代表

推薦会員；八重野一洋 君

井手 陽一 君



高校を卒業してから包丁しか持った事のない私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

## ロータリー情報



## クラブビジョン委員会 芥川 圭一郎君

ロータリーの重点分野

6つの重点分野があります。

- ・平和と紛争予防/紛争解決
- ・疾病予防と治療
- ・水と衛生
- ・母子の健康
- ・基本的教育と識字率向上
- ・経済と地域社会の発展

各重点分野には関連する数字がありますので、皆様にお伝えします。

## 「平和と紛争予防/紛争解決」

毎年、20,000人が地雷によって手足や命を奪われています。今日、紛争や迫害によって5,100万人が難民生活を強いられています。紛争で命を落とした犠牲者の90%が一般市民で、そのうち半数が子どもです。

## 「疾病予防と治療」

毎年世界で10億人がテング熱やハンセン氏病に苦しみ、先進国での症例が少ないため製薬会社の開発が遅れています。世界人口の6人に1人が医療費を払うことができません。医療費の負担によって毎年1億人が貧困生活に追い込まれています。

## 「水と衛生」

衛生的なトイレや水設備が利用できない人が25億人います。衛生設備や安全な水の欠如が原因となり。毎日1,400人の子どもが命を落としています。きれいな飲み水が利用できない人は7億4,800万人います。

## 「母子の健康」

疾病、栄養失調、医療の不備、不適切な衛生設備が原因で毎年、5歳未満の子ども630万人が亡くなっています。サハラ以南のアフリカでは、39人に1人の女性が妊娠中または出産による合併症で亡くなっています。

## 「基本的教育と識字率向上」

全世界の子どもが初等教育を受けられるようにするにはあと170万人の教師が必要とされています。全世界で5,700万人の子どもが学校へ通っていません。

## 「経済と地域社会の発展」

世界で14億人が（その半数近くは職を持っているにもかかわらず）1日1ドル25セント以下の生活を送っています。

このような数字をみると、重点分野の理由が見えてきました。

## 池永 隆司会長・八重野 一洋副会長・宮崎 正典幹事

コロナの足音が近くまでできていますので、皆様におかれましては感染予防対策に留意されてください。今日は、福田力さんの入会日です。記念すべき50人目の会員です。入会おめでとうございます。それと本日は、国際R財団の第4回クラブフォーラムです。

## 鶴田 明敏君

福田力君の入会心より歓迎いたします。山澄地区公民館で和食料理の講師などお世話になっています。時々しかお店にはお伺いできませんが、いつも美味しい京料理などありがとうございます。私はこのクラブで派閥抗争で敗れましたが、優柔不断でずるすると30年間ひっそりと在籍させていただいております。力会員におかれましては、八重野グループのキーマンとしてどうか、のびのびと活動をしてください。

## 澤田 磨君

孫が生まれました。お祝いは森平、太平楽、りきでおごってください。お待ちしております。

## 川上 仁哉君・藤井 寿人君

先日、お話したように、11月22日に福江で開催された77キロマラソンに2人で挑戦してきました。結果から申し上げますと川上は54キロ地点で、藤井は40キロ地点でジェットフォイルの都合もあってリタイアとなりました。またもやKTNの取材にもゴールを目指しますと放映されながらも、結果はダメでした。来年も開催されるそうなので、来年は2泊してゴールをしたいと思います。次回は12月末の42キロ佐世保を走るレースに参加してきます。

## 会員一同

新入会員の福田力の入会を歓迎いたします。

本日の合計	53,000 円
本年度の累計	461,000 円



## 本日の卓話

### ◆第4回クラブフォーラム◆

#### 国際奉仕・ロータリー財団 宮崎 宗長 委員長



皆様、こんにちは。国際奉仕・ロータリー財団委員長の宮崎宗長です。11月は、「ロータリー財団月間」となっております。そこで、本日のクラブフォーラムの時間は当委員会が担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

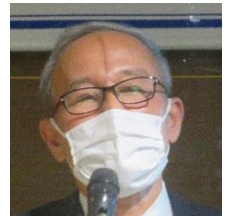
まずは、当「国際奉仕委員会」の「国際交流委員会」としては年度当初の計画として、韓国釜山蓮山 RC との継続的な活動を掲げ、4月に訪問を計画しておりましたが、ご存知のようにコロナ禍のひろがりでも国際情勢も厳しくなり今現在何もできない状況となっております。この先もはっきりした方向性がお示しできない情勢です。とても残念に思っております。

一方、「ロータリー財団・米山記念奨学委員会」の方は、後ほど橋口委員長よりお話をいたしますが、8月並びに9月に「佐世保中央ロータリークラブ基金会」を開催し、「ポールハリスフェロー」2名並びに「米山功労者」5名のノミネートを行いました。

それと、創立30周年実行委員会からも周年事業としてクラブでの米山記念奨学会へ寄付の依頼があり、合わせてクラブの理事会で審議を諮っていただき、今年度の寄付に至った次第です。

また、本日卓話をしていただく「ロータリー財団・米山記念奨学委員会」の橋口委員長におかれましては、10月8日の「創立記念例会」及び10月16日の「新入会員セミナー」で「ロータリー財団」「米山記念奨学会」及び「佐世保中央ロータリークラブ基金会」のお話をさせていただいたところですが、今の卓話は違った角度からのお話をさせていただきます。最後までよろしくお願いいたします

#### ロータリー財団・米山委員会 橋口 佳周 委員長



#### 「プライベートな国際交流」 日本の橋口ファミリーと ミクロネシア連邦の橋口ファミ リ

私の父は、昭和4年商業学校を卒業するとすぐに横浜の水産会社に就職して、戦前当時日本が信託統治していた南洋のトラック諸島に赴任しました。

そこで知り合った現地の女性と恋に落ちて子供が3人できました。残念ながらその後、太平洋戦争がはじまり父のいた太平洋の島々にも戦火が注ぐようになり、泣く泣く家族と別れ、命からがら日本に何とか帰り着くことができました。その後終戦になり、日本で再婚し子供にも恵まれ戦後の混乱期を乗り越えました。

昭和33年突然「南洋の島から混血の青年が父を訪ねて」の見出しの新聞記事に、すぐにトラックに残してきた長男だと分かり私も一緒に門司港に会いに行きました。

初めて見る異国の異母兄は、14歳も年上で浅黒く逞しく優しい人でした。それから、トラックのファミリーとの交流が始まりました。

兄は自分の中に半分の日本人の血が流れていることを誇りに思っていました。そこで、兄の長男を日本の上智大学に留学させて次の代の日本とのつながりを大事にしました。兄は、現地で商売成功し9人の子供を育て、一族の中で困った人がいたらとことん面倒を見てあげる人でもありました。

そんな兄が十数年前に亡くなったとき、私も日本のファミリーの長男として葬式にトラック島迄出かけました。

島中、又周りの島から約5000人の人達が弔問に来ていただきました。

帰りの日、島で親戚一同が集まりホテルで会食をしました。その時、兄の長男が、「このトラック島には日本人の名前の一族がたくさんいるが、今も日本のファミリーとこうして交流をしているのはわれわれ橋口ファミリーだけだ。自分たちの子供もその子供も日本人の血が流れている事を誇りに思い今後とも深い交流をしていきたい」とのスピーチをもらいました。我々は血の繋がっている交流ですが、肌の色の違いや生活、文化の違いはあっても、心から信頼をもって人に接すれば分かり合える事と確信しています。同じ人間ですから。



SAA : 馬場 貴博君  
次回例会/12月3日18:30~